

川口市近隣少年野球交流大会規則

競技進行上の内規

- (1) 本大会の試合は、7回戦とし、3回以降12点差及び5回以降は7点差をもってコールドゲームとする。
- (2) 試合時間は、90分とし新しいイニングに入らない。
- (3) 本大会の試合は、時間内7回までとする。同点の場合はタイブレークを1イニング行い、得点の多いほうを勝ちとする。
その後同点の場合は抽選とする。
ただし、決勝戦・準決勝戦は勝敗が決するまで、タイブレークを繰り返し、勝敗を決める。
- (4) グランドルールで特に定められた以外は、公認野球規則及び競技者必携による。
- (5) 暗黒、降雨その他、球審によって試合打ち切りを宣告された場合(コールドゲーム)は、5回(4回1/2)終了で成立、同点の場合は抽選とし、不成立の場合は継続試合とする。
- (6) 投本塁間は16m、塁間23mとする。
- (7) ベースは固定ベースとする。
ただし、大会運営上、固定ベースとしない場合がある。

競技運営に関する注意事項

- (1) 各チームは、試合開始予定時間30分前に大会本部にメンバー表6通(フルネーム・ふりがな・登録メンバーを全員記入すること)を提出し、登録選手の照合を受けること。
次試合以降は前の試合の4回終了時または、試合開始30分前までにメンバー表を提出すること。
その際、ジャンケンにて攻守の決定を行う。
- (2) ベンチは、組み合わせ番号の若い方を一塁側とする。
- (3) 試合開始予定時刻前でも、原則として、前の試合が終了して20分後に次の試合を開始する。
- (4) 試合開始予定時刻を経過しても球場に9名現れないチームは棄権とみなす。
- (5) タイブレークは以下の方法で行う。
 - ① 無死満塁で、継続打順とし、前回の最終打者を一塁走者、二塁、三塁の走者は順次前の走者とする。
 - ② タイブレークは代打、代走及び守備交代を認める。
- (6) 抽選は以下の方法で行う。
 - ① 審判員及び試合終了時に出場していた両チームのメンバーが試合終了挨拶の隊形に整列する。
 - ② 抽選用紙に○印、×印、各9枚記したものを封筒に入れる。
 - ③ 球審が18枚の封筒を持ち、先攻チームより、1枚ずつ交互に選ばせる。
 - ④ 2人の審判員が、両チームの選んだ封筒を集め、それぞれ監督立会いのもとに開封し、○印の多いほうを抽選勝ちとする。
- (7) 審判員は川口市少年軟式野球連盟・スポーツ少年団公認審判員が行い、市公認審判員は団の監督・コーチを兼任することができない。
- (8) 試合中又は、グラウンド内においての指導者、応援席よりの好ましくない野次・マナーに対しては、審判員又は控審判員はそのチームに対して厳重に注意、又は本人に対し退場を与えることができる。
- (9) 試合中(試合前の練習を含む)ベンチに入れる人員は、監督1名、コーチ3名、スコアラー1名、選手20名、計25名までとする。(スコアラーは指導者資格を問わない)
- (10) 背番号は監督30番、コーチ29番から21番、選手は主将10番、その他は0番から20番とする。
- (11) 試合開始・終了挨拶時は、監督、コーチ、スコアラーはベンチ前に整列をすること。
- (12) 指導者1名のブルペン捕手を試合開始時間前までの間許可する。マスクを着用すること。
- (13) 球場内はトスバッティングのみ認める
なお、スイングについては指導者が立ち会い、安全を確保する。

- (14) シートノックは5分間とする。
ただし、大会運営上、時間を短縮または、シートノック無しで試合を開始することがある。
シートノックは、ホーム1か所のみとし、後攻チームから行う。
捕手は、マスク・捕手用ヘルメット・プロテクター・レガースおよびファールカップを着用する。
ノッカーも必ず選手と同様のユニフォームを着用すること。
ボールボーイはヘルメットを着用すること。
補助員として、指導者を認める。補助員はヘルメットを着用すること。
- (15) 投手の投球は、直球のみとする。
- (16) 1人の投手の1日の投球数は70球とする。
試合中に70球に到達した場合は、その打者が打撃を完了するか、攻守交替の時まで投球することができる。
ボークにもかかわらず投球をしたものは、投球数にカウントする。
牽制球や、送球とみなされるものは投球数にカウントしない。
投球数の管理は、大会本部が行う。
- (17) 投手の準備投球は1分以内かつ、初回7球以内、その他は3球以内、再登板は5球以内とする。
- (18) 投手が手首にリストバンド(サポーター)等を使用することを禁止する。
なお、負傷等で、手首に包帯等を巻く必要がある場合は、大会本部の許可を求めること。
打者・走者・守備時のリストバンド及び手袋の使用を認める。
- (19) 捕手は、必ずマスク・捕手用ヘルメット・プロテクター・レガースおよびファールカップを着用すること。
控え捕手も攻守交代時、シートノック、グラウンド内で投球を受ける場合は着用すること。
- (20) 打者、走者及びコーチャーボックスに入る者は、危険防止のため耳付きヘルメットを着用すること。
- (21) 申告敬遠は監督のみ申し出ることができる。
- (22) 抗議は、主将と当該プレーヤー、監督のみとする。
- (23) ベンチ内での電子機器類(携帯電話・パソコン等)の使用を禁止する。
ただし、電子スコア記録用として1台の使用を認める。
- (24) ベンチ内でのメガホンの使用は1個、監督に限り認める。
- (25) ファールボールはベンチサイドで処理する。
ただしバックネット前は、攻撃側で処理する。
- (26) 選手交代は必ず球審に申し出ること。
- (27) タイムの回数は、監督3回、選手3回、攻撃3回とする。
なお、タイブレークは1イニングに1回とする。
- (28) 次打者は必ず次打者席に低い姿勢で入ること。
- (29) 次打者席は自分席側とする。打席につく際、不要のバット等をグラウンドに置いて行かないこと。
- (30) 空タッチを禁止する。
空タッチにより走者に妨害あったと審判員が判断した場合はオブストラクション(2)項を適用する。
- (31) プレーヤーが、塁上に腰を下ろすことを禁止する。
- (32) 内野手の転送球は、そのイニングが始まる前(投手の規定投球が済んだ時)のみとする。
- (33) 打者は、投手が投球位置にいるいないにかかわらず、速やかにバッターボックスに入ること。
- (34) 打者がみだりにバッターボックスを外した場合は、球審はタイムをかけずに、投球に対して正規にストライク・ボールの判定を行う。
- (35) 足を高く上げてスライディングすることは危険防止のため禁止し、これが妨害になったと審判員が判断した時は走者をアウトとする。
- (36) 同一チームの選手・監督・コーチは同色、同形のユニフォーム(帽子、ストッキングを含む)を着用しなければならない。
ズボンのロングパンタロン型を禁止する。
アンダーソックスの上にストッキングを履き、アンダーソックスが見える状態とすること。
ベンチ内でのショートパンツを禁止する。